

令和6年度 もりおか 郷土芸能 フェスティバル

令和7年

2月

23日

日祝

ユネスコ無形文化遺産
岩崎鬼剣舞

◆特別出演 岩崎鬼剣舞保存会（北上市）

【古 武 道】南部藩古武道保存会
黒川参差踊連中
下久根さんさ踊り保存会
東安庭わかば会
盛岡さんさ踊り清流
山岸さんさ踊り保存会
上鹿妻念仏剣舞保存会
山岸獅子踊保存会
【獅子踊り】上鹿妻田植踊保存会
【田植踊り】大宮神楽保存会
【神 楽】上鹿妻田植踊保存会
※出演団体及び出演団体数は変更になる場合があります。

開場 9:30 開演 10:00 (終了予定16:00頃)
途中昼休憩あり

会場 キャラホール(盛岡市都南文化会館)盛岡市永井24-10-1

入場料 〈前売〉800円 〈当日〉1,000円 〈中学生以下〉無料

前売券販売所 ※前売券は事務局及び市内プレイガイドにて、開催日の1か月前から発売予定
盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会事務局(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課内)、キャラホール、川徳、アネックスカワトク、プラザおでっ、いわて生協(市内6店舗(向中野、高松、仙北、山岸、松園、青山)、ベルフ牧野林(滝沢市)、コープ花巻あうる(花巻市)、ベルフ八幡平(八幡平市))

◆主催/盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会 ◆共催/盛岡市、盛岡市教育委員会 ◆助成/令和6年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)

◆後援/(一社)岩手県文化財愛護協会、(公財)盛岡市文化振興事業団、(福)盛岡市社会福祉協議会、(公財)盛岡観光コンベンション協会、岩手日報社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、岩手ケーブルテレビジョン、ラヂオ・もりおか、月刊アキュート、情報紙ゆうゆう

お問い合わせ 盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会事務局(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課内)

TEL:019-639-9067 (FAX:019-639-9047) E-mail:edu.bunka@city.morioka.iwate.jp



文化庁



出演団体の紹介・出演順

開 会 式

① 下久根さんさ踊り保存会 (盛岡市飯岡)

藩政時代に発生したさんさ踊りが下飯岡の地に波及したもので、百数十年の歴史を伝えています。昭和15年(1940)高峰秀子主演映画「馬」に出演した映像があります。

現組織は昭和62年(1987)に盛岡市無形民俗文化財指定を受けております。

本日はお盆に行われるさんさ踊り(輪踊り)の様子、続いて元へとのさんさ踊り披露の様子をご覧くださいます。

② 上鹿妻田植踊保存会 (盛岡市上鹿妻)

後継者不足が続く、踊り手の確保も大変な状況です。現在子どもたちの理解もあり、がんばって練習しています。三番叟を元気に踊っていますので、大きな拍手をお願いします。

③ 黒川参差踊連中 (盛岡市黒川)

当団体は本物のわらじを履いています。ところが近年、作り手が少なくなり入手が困難になってきました。このためJRR東日本財団からのご支援によりわらじ作製の訓練を1年間実施し、やっと作れるようになりました。地域内7つの団体の踊り継承にとりくむ乙部中学校の生徒には100足を昨年贈呈しました。

昔からの踊り方、衣装のデザインなど頑なに守り続けています。

④ 南部藩古武道保存会 (盛岡市夕顔瀬町)

盛岡藩では当時多くの武術が伝承されていましたが、現在まで伝わっているのは、諸賞流和術と無辺流棒術の2流派のみです。諸賞流は激しい技を特徴とした柔術であり「御留流」とも呼ばれました。無辺流は棒術のみならず半棒、小太刀、長刀など多様な技が伝えられています。毎週日曜、橋市道場で稽古に励んでおり、令和6年11月に開催された第21回全国藩校サミット盛岡大会で演武を披露しました。

昼 休 憩

⑤ 特別出演 岩崎鬼剣舞保存会 (北上市)

岩崎鬼剣舞は、岩手県北上市和賀町岩崎に伝承されている念仏剣舞で、念仏を唱えることで衆生を済度し、反閻で大地の悪霊を鎮める民俗芸能です。

鬼剣舞の面は、白・青・赤・黒の四色の他にカッカの面があり、それぞれ春夏秋冬・東西南北・五大明王を表すとされています。

演目として16演目が伝承されており、踊りや囃子のほかに秘伝書伝授式や念仏供養、弓取り式といった儀礼、面打ちや毛ザイ作りといった技法を数多く伝承していることから、国の重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。

⑥ 山岸さんさ踊り保存会 (盛岡市山岸)

藩政時代(約400年前)から伝わる古い所作を残す踊りで、軽快にして変化に富みつつも極めて格調が高く、さらに他の踊り組の小振り太鼓と相違し、尺八寸(約54cm程度)の太鼓から響き渡る迫力に、昔お国入りの藩主も長旅の疲れを忘れ「さあさ踊れ、さあさ踊れ」と囃されたものだと言い伝わっております。

⑦ 山岸獅子踊保存会 (盛岡市山岸)

建久2年(1191)、南部家の祖、光行公が甲斐国から陸奥国へ移住になったとき、連れてきた舞師が残した流儀であるといわれています。中踊の際には、牡鹿が肩から下げた締太鼓を打ちながら、あちらこちらに迷い踊る愛らしい牝鹿を囲んで踊る姿「めじしぐるい」は、まさしく妻を恋う鹿の仕草で、団欒の楽しさを表現しています。

⑧ 上鹿妻念仏剣舞保存会 (盛岡市上鹿妻)

大笠は五階の塔を頂き、直径約1.5メートル、重さ約20キログラムあります。笠振りは念仏に合せて緩急をつけながら左右に回す踊りです。

念仏剣舞は、文化年間(1804～1818年)に鹿妻村(現盛岡市、江戸時代の村名)に伝えられました。剣舞はお盆を中心に行われてきましたが、近年は郷土芸能フェスティバルや地区内の祭典などに出演しています。

⑨ 東安庭わかば会 (盛岡市東安庭)

明治の初め頃、旧都南村の大沼地区から東安庭にお婿さんに来た人が、この地域にさんさ踊りを伝えたのがきっかけで、現在も踊られ、盆踊りや各種イベントなどに参加しています。

踊りの特徴としては、テンポが穏やかで、踊りにあらが目立ちやすいため、これを乗り越えるべく、姿勢良く、手、指にまで神経の行き届いた「踊り上手」としての心配りを大切に踊られてきたと言われています。

⑩ 大宮神楽保存会 (盛岡市本宮)

大宮神楽は、盛岡市本宮に鎮座する大宮神社に伝承されている神楽です。伝承活動は、通年月に2～3回、保存会とともども教室と一緒に稽古しています。盛岡市内の神社例大祭奉納や、公演等も保存会とともども教室と一緒に演舞しています。本日の演目「天岩戸開」は「古事記」に出てくる「天の岩屋戸騒動」の場面にもとづいたものです。

⑪ 盛岡さんさ踊り清流 (盛岡市猪去)

猪去地域に伝わる伝統さんさ踊りを保存継承しています。テンポが速く、小廻りと呼ばれるクルクルと回る振りや、踊り手は手先の品を作り、腰を低く落とす上下動の多い動き、太鼓の撥返しに特徴があります。年間を通して練習を行い、8月の盛岡さんさ踊りへの参加の他、様々なイベント、公演に出演しています。